



進もう、豊かな畜産の未来へ

公益社団法人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK  
INDUSTRY ASSOCIATION



公益社団法人中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9F  
Tel:03(6206)0840(代) Fax:03(5289)0890

<https://jlja.lin.gr.jp>



RECRUITMENT INFORMATION

トップメッセージ —MESSAGE



公益社団法人 中央畜産会  
会長 森山 徹

中央畜産会は昭和30年の設立から今日まで都道府県の畜産会と共に、畜産に関する技術及び経営指導の中核的な組織として、我が国の畜産振興・発展のために歩んできました。

この間、経済変動、国際化、家畜疾病の発生、気候変動など環境が変化中、我が国の畜産も変化してきました。このような時代の変化に柔軟に対応し、畜産経営者の皆様に貢献することが、私どもの責務であると考えております。

そして、今後の新たな課題は、食料安全保障やカーボンニュートラルへの対応です。この課題に取り組まなければ、国民の食生活を支える産業として更なる成長をすることは出来ません。

この大きな変革期を迎える中、ご自身の個性や力を発揮し、新たな課題にチャレンジしていただきたいと思います。

豊かな畜産の未来にむかって、中央畜産会と共に進んでいきましょう。

中央畜産会のあゆみ —HISTORY



どんな仕事をするところ?

**Q** そもそも、公益社団法人ってなんですか?  
利益追求ではなく、公益事業を行う法人として活動しています。公益事業とは、学術・慈善その他の公益に関する事業で、不特定かつ多数のものの利益の増進に関わる仕事の事です。

**Q** どんな部署がありますか?  
管理部、衛生指導部、経営支援部、資金・経営対策部の4部から構成されています。このうち、管理部は総務・企画調整、経営支援部は支援調査・情報・事業推進のセクションに分かれています。

**Q** どんな人と仕事をしていますか?  
農林水産省・全国の畜産会組織をはじめとする畜産関係団体など、日本の畜産業に関連する多くの人と仕事をしています。

**Q** 中央畜産会は何をしているところですか?  
日本の畜産業の振興と発展のために、国などが実施している施策のお手伝いをしています。

業務内容 —BUSINESS

育てる 畜産経営者や指導者の育成

- 畜産経営者や指導者を対象としたスキルアップのための研修会を開催
- 総括畜産コンサルタント、農場HACCP審査員の資格付与、農場HACCP認証
- 後継者の育成や新規就農者の参入促進、地域の中核的な担い手育成のための研修会
- 高校生を対象にした、獣医師養成のための修学資金の給付



守る 家畜防疫の推進

- 地域一丸となった家畜防疫活動の推進
- 家畜伝染病に備えた防疫演習の実施
- 飼育衛生管理基準の徹底や家畜に対するワクチン接種の推進
- 家畜衛生向上のための各種支援



支える 畜産経営の支援

- 経営診断の手法づくりとマニュアルの作成
- 全国の畜産経営の実態調査と経営指標づくり
- 畜産経営の規模拡大、省力化・機械化を支える畜産施設・機械導入の支援
- 経営に必要な資金調達や低利の借換資金の融通による経営改善支援
- 家畜伝染病発生時の経営再開支援や甚大な自然災害からの復興支援



広める 畜産に関する情報発信

- 優れた畜産経営の表彰・成果の普及
- 出版物やインターネットによる最新の畜産技術や畜産経営の紹介
- 畜産をわかりやすく紹介する映像の制作
- 国産畜産物の国内外へのPR活動



データで見る中央畜産会 —COMPANY PROFILE

<p><b>育てる</b></p> <p>総括畜産コンサルタント資格付与</p> <p>総数<b>82名</b></p> <p>直近5年分</p>	<p><b>育てる</b></p> <p>農場HACCP認証</p> <p>認証農場累計<b>350農場</b></p> <p>審査員登録者数285名 令和4年8月末日</p>	<p><b>育てる</b></p> <p>畜産経営指導者向け研修会開催</p> <p>総受講者数<b>1,997名</b></p> <p>実施回数39回 令和3年度実績</p>	<p><b>育てる</b></p> <p>獣医師向け研修会開催</p> <p>総受講者数<b>698名</b></p> <p>令和3年度実績</p>
<p><b>支える</b></p> <p>畜産経営データの蓄積</p> <p>全国合計<b>2,385戸</b></p> <p>直近5年分</p>	<p><b>支える</b></p> <p>農家への低利融資支援 (融資機関への利子補給金の交付) 利子補給金交付対象融資件数</p> <p><b>677件</b></p> <p>融資残高267億円 令和3年度末</p>	<p><b>守る</b></p> <p>家畜伝染病の防疫演習の実施</p> <p>全国<b>193か所</b></p> <p>令和3年度実績</p>	<p><b>広める</b></p> <p>農林水産祭参加行事 全国優良畜産経営管理技術発表会 表彰事例</p> <p>累計<b>316事例</b></p> <p>昭和61年度~令和3年度</p>
<p><b>広める</b></p> <p>月刊誌畜産コンサルタント (国内唯一の畜産総合専門誌)</p> <p>年間発行部数<b>72,000部</b></p> <p>創刊昭和40年1月</p>	<p><b>広める</b></p> <p>和牛統一マーク使用許諾</p> <p>累計<b>163件</b></p> <p>商標登録済国 46か国・地域(日本含む) 平成19年度~令和3年度</p>	<p><b>広める</b></p> <p>家畜に係わる伝統行事への支援</p> <p>全国<b>93か所</b></p> <p>令和3年度実績</p>	<p><b>広める</b></p> <p>畜産に関する映像制作</p> <p>累計<b>150本</b></p> <p>直近5年分</p>



Kさん  
管理部  
令和3年4月入会  
動物応用科学科修了

◆主な業務

管理部に所属し、農業高校や農業大学の教職員のみなさんを対象に研修の支援を行う事業や各種調査事業などを担当しています。研修に使う資料作成や会議開催など、運営や企画立案に取り組んでいます。

◆志望理由

大学では動物応用科学を専攻し、将来は畜産業全体の振興に繋がる仕事がしたいと漠然と考えていました。営利目的が先行しない仕事が良いと思案していたところ、当時の所属研究室の教授の勧めもあり中央畜産会を志望しました。転勤がなく腰を据えて長く仕事が続けられるといった環境も決め手となりました。

◆入会して感じたこと

畜産に関係する基本的な知識習得を目的とした職員研修をはじめ、入会してから今までに多くの学ぶ機会があり、実務に関連する知識が蓄えられていったと思います。また1年目から様々な仕事に携われる環境が整っているため、意欲があれば多くの業務にチャレンジできることも魅力です。

◆学生の皆さまへ

時間をかけて自分を見つめ直す機会となるのが就職活動だと思います。本音と建前が共存するなかで、自分を偽ることなくやりたい仕事を見つけることが、なりたい姿に繋がると感じています。なにより意欲が重視される職場です。自分の意見を持ち、何事にも前向きに取り組む姿勢をもって中央畜産会を選んでいただければと思います。



Hさん  
経営支援部(支援・調査)  
平成28年4月入会  
食料資源経済学科卒業

◆主な業務

現在担当している主な業務は2つです。1つは全国の酪農、肉用牛経営を対象にした、経営及び技術成績の実態調査です。調査結果を所得や飼養規模別に集計し、畜産関係者に情報提供しています。2つ目は、全国優良畜産経営管理技術発表会です。この発表会では、経営及び管理技術で優秀な成績を収めている全国の畜産経営の中から、特に優秀な経営を選抜し、表彰を行っています。受賞者の中には、農林水産祭で天皇杯を受賞した事例もあります。

◆畜産のことをどう学んでいるか

毎週水曜日に若手職員を対象とした職員研修が行われているので、主に研修の中で畜産の基礎を学んでいます。

◆職場環境

本会には行政機関や畜産関係団体等で経験を積まれたOBが多く在籍しており、仕事の中でわからないことがあっても、ベテラン職員がサポートしてくれるので安心して働ける職場であると感じています。

◆学生の皆さまへ

本会には、大学時代に必ずしも畜産を専攻していた方だけが在籍しているわけではありません。私自身、大学生のときには農業経済を専攻しており、畜産の知識はほとんどありませんでした。入会が決まった後に、日々勉強は必要ですが、研修も充実しているため、これから畜産を学びたいという意欲がある方は、現在の専攻分野にとらわれず是非チャレンジしてみてください。

研修について

入会してすぐ

- ・ビジネスマナー研修
- ・コミュニケーション研修
- ・新任基礎研修(基礎編)  
中央畜産会および46道府県の畜産会に入会した新任役職員を対象に、今後の活動に必要な基礎的な知見などを学びます。
- ・職員研修(週1)  
新任職員を対象に畜産に関連する基礎知識の習得を目的とし、今後実務で必要となる周辺知識の付与を行います。



…等

2年目以降

- ・職員研修(週1)  
各種統計データを参考にした経営分析や実態調査結果から見える要因分析など、畜産経営分析のノウハウを学びます。
- ・経営指導従事者研修  
新任者層を対象に、円滑な経営支援業務を行うためのロジック等を盛り込んだ実践研修を行います。
- ・海外畜産事情研修(基礎編・実践編)  
EUにおける畜産経営に対する支援指導活動の実態や方法等について、海外派遣を通して知見を広げます。(昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、リモートにて現地レポート等を実施)

…等

新任職員を対象とした週1回の職員研修では、畜産に関連する基礎知識を学ぶことができます。

“家畜ってなに?”というテーマから、“乳用牛や和牛の種類は?”“家畜は何を食べているのか?”など研修を重ねる度に、暮らしと密接な関係にある畜産の知らなかった情報に驚き、また勉強になることが多いと実感しています。

この研修は、総合ビジネス科出身で、畜産に関する知識をほとんど持っていなかった私でも分かりやすく、また普段の仕事においても業務内容の理解に非常に役に立っています。

また、先日兵庫県で行われた和牛枝肉共励会の視察に初めて伺いました。牛の枝肉や格付に使う器具を実際に見たときには、以前に研修で学んだことが思い出され、より興味を持って参加することができました。

現在、管理部に所属し、システム関係の仕事に携わっています。まだまだ学ぶべきことが多くありますが、毎週の新鮮な驚きを糧に日々仕事に取り組んでいます。



Sさん(総務) 令和3年4月入会 総合ビジネス科卒業  
Hさん(支援・調査) 令和3年4月入会 食品資源経済学科卒業

経営指導従事者研修とは、全国の畜産会組織の幅広い経営支援活動を行うために、より専門的な経営支援の知見を学ぶことを目的とした研修で、課題に応じて意見交換を行います。畜産経営において重要なポイントとは何か、どうすれば畜産農家の経営をサポートできるか等、課題資料の見方から読み取れること等について講師を交えて話し合います。

普段はなかなか会うことのできない全国の畜産会組織の職員の人たちと、共通の課題について議論を交わすことで、各道府県の畜産情勢や業務状況等の理解につながります。

こういった研修は、私が普段行っている業務が全国の現場でどう活かされているのかイメージが明確になりますし、全国の畜産会組織の職員の人たちと短くも濃密な時間をともに過ごすことで、コミュニケーションが円滑になり、研修後のやり取り等がより良好になっていると実感しています。

「全国優良畜産経営管理技術発表会」開催スケジュール

この発表会は、優れた畜産経営等を表彰し、その成果を広く紹介することで、国内の畜産経営の経営改善に資することを目的に毎年開催しています。発表会の受賞者の中から、これまで天皇杯や内閣総理大臣賞等、名誉ある賞に数多く選出されています。



- 5月 ● 事例の推薦
- 6月 ● 書類審査
- 7月 ● 第1回審査委員会
- 8月 ● 現地調査
- 9月 ● 第2回審査委員会
- 10月 ● 全国優良畜産経営管理技術発表会
- 11月 ●



こんなこともやっているよ中央畜産会

月刊「畜産コンサルタント」刊行スケジュール

国内唯一の畜産総合専門誌として、生産者や畜産関係団体の方々に役立つ畜産のタイムリーな情報を毎月発信しています!



- 5~4カ月前 ● 事例の推薦  
①スケジュール確認 ②企画趣旨の検討 ③情報収集 ④企画書作成  
⑤執筆候補者選定 ⑥編集会議資料作成
- 4~3カ月前 ● 企画会議  
⑦編集会議(1) ⑧議事内容再確認/企画書の再考・修正  
⑨編集会議(2)/原稿依頼先の最終決定
- 3~2カ月前 ● 原稿執筆依頼  
⑩原稿執筆依頼文の作成 ⑪原稿執筆依頼(電話やメール) ⑫執筆依頼の確認
- 2~1カ月前 ● 編集・校正・著者校正等  
⑬原稿受け取り ⑭原稿を読み込み・校正作業  
⑮印刷業者に原稿データを入稿 ⑯印刷原稿校正(1)  
⑰著者校正の依頼 ⑱印刷原稿校正(2)  
⑲ページの割り振りの検討  
⑳校了・印刷へ

完成

ここが面白い!

- ・自分の持っている知識(畜産以外もOK!)を活用できる。
- ・新しいモノを生み出す力が身につく。
- ・さまざまな人とのつながりができる。

ここが難しい…

- ・読者のニーズに合った記事とは何かを常に考えなければならない。
- ・特集に合った情報の収集力が求められる。



◆主な業務

経理部門を担当しています。本会は公益法人として補助金を扱っており、経費の収入・支出の管理のほか、日々の進捗管理を担当者と連携を取りながら行っています。

◆学生の皆さまへ

現在就職活動に励まれている皆様も、高校や大学など岐路に立ったときはオープンキャンパスに行かれたり、先輩から話を聞いたりされたことと思います。今はネットで調べることが主流になっていますが、かえって多くの情報で迷うことがあるかもしれません。いずれの場合においても、たくさん悩んでください。そして、疑問に思ったことは言葉に発して確認してみてください。視野を広げて多くを見ることで開かれた道を皆様に歩んでいただければと思います。

◆ワークライフバランス(キャリア形成)

入会してから、2回育児休暇を取得しています。2人の子供を育てながら仕事を続けることは大変なことも多かったですが、周りのサポートもあり今となっては良い経験が出来たと思います。昨年、畜産会役職員功績者表彰を受けました。入会して30年余り、責任ある立場となって試行錯誤の毎日ですが、本会には様々な経験を積んだ方がたくさんおり、仕事と育児の両立の上で参考となることがとても多くあります。ライフスタイルにどう生かし、いかに自分のものにしていくか日々奮闘しています。

◆主な業務

中央畜産会の会員組織である全国の畜産会組織は、畜産経営を支えるために畜産経営支援・指導業務を行っています。私は、それらの業務に従事する人の研修を企画、遂行したり、業務を円滑に行うための資料を作成したりしています。

◆ワークライフバランス

令和元年に職場内結婚し、令和3年に子供が生まれました。また入会して9年が経ち、後輩も入ったことで責任ある仕事を任されるようになり、ワークライフバランスの重要性を感じています。幸い周りの方の支えもあり、出産の立会や子供の定期健診のための休暇を取ることができました。また、妻も産休や育休を取得しています。毎週水曜日の定時退社日には、子供が寝る前に帰宅することができています。

◆学生の皆さまへ

社会人になると幅広い年齢層、バックグラウンドの異なる方々と仕事をする機会が多くなります。学生のうちから、広い視野をもって、多様な経験をして、異分野・異年齢の友人等との関わり合いをもち、コミュニケーション力を高めることは大事です。仕事以外でも切磋琢磨できる環境を作ることで、公私ともに充実させることができます。残り少ない学生生活を謳歌してください。



どんな環境で働くの？

Q 転勤はありますか？

事務所は一か所だけなので、転勤はありません。

Q 福利厚生はどういったものがありますか？

年次有給休暇は入会初年度から20日付与され、取り切れなかった分は翌年度に繰越しが可能です。また夏季休暇(3日)や結婚休暇(7日)、創立記念日といった、有給休暇とは別の休暇があります。祝日近くには“有休促進日”を設定するなど、職員が休みを取りやすい環境を整えています。また年2回の健康診断や歯科検診、自身のストレス状態の確認、産業医との面談など、職員の健康管理を支援しています。

Q 職員同士の交流はありますか？

職員同士の親睦会があり、様々な活動を行っております。ランチ会やくじ引き大会を通じ、普段は交流のない他のセクションの職員とも垣根を越えて交流できる機会を設けています。

Q 実際にどういった人が働いているのでしょうか？

「データで見る職員」にアンケート結果などのデータをまとめましたので、ご覧ください。

親睦会で様々な活動を行っています。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止から活動は縮小。例年の主な活動は次のとおりです。

○職員歓送迎会

○食事会

年に数回、すき焼き弁当など少しリッチなお弁当を配送してもらい、みんなで楽しんでいます。



○地方競馬観戦会

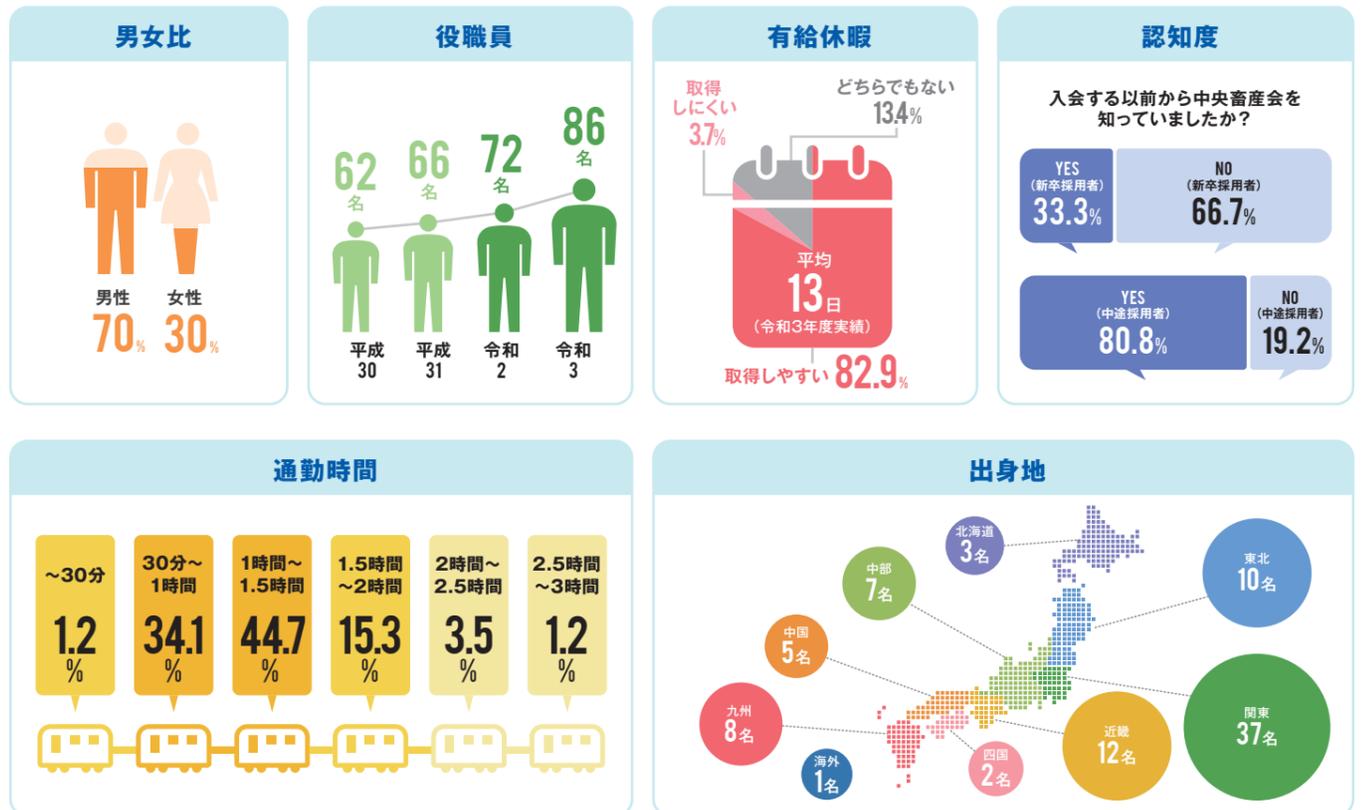
中央畜産会は地方競馬を応援していることから、年間2~3回大井、川崎、浦和、船橋の競馬場に行って競馬を楽しみます。

○家族に感謝企画

私たちが安心して仕事ができるのも家族の協力があるからこそ。日頃の感謝の気持ちを込めて畜産物をご家庭にお届けします。



データで見る職員 — PERSONAL PROFILE



ワークライフバランスに関する主な制度

子育てや介護などのライフイベント等に応じた働き方ができるよう休暇等の制度を設けています。

<p><b>産前・産後休暇</b></p> <p>産前6週間前(多胎妊娠の場合は14週前)から産後8週間まで</p>	<p><b>配偶者出産休暇</b></p> <p>妻の出産に伴う入退院の付き添い等のため(3日)</p>	<p><b>出生時育児休業(産後パパ育休)</b></p> <p>子の誕生日又は出産予定日のいずれか遅い方から8週間以内に4週間まで(2回まで分割可能)</p>
<p><b>育児参加のための休暇</b></p> <p>妻の産前産後期間中に生まれてくる子又はその期間中に未就学児を養育するため(5日)</p>	<p><b>育児休業</b></p> <p>子が3歳に達するまでの期間内</p>	<p><b>子の看護休暇</b></p> <p>子の小学校就学まで1人につき年5日(2人以上の場合は年10日)</p>
<p><b>養育時間</b></p> <p>子の小学校就学まで1日2時間まで</p>	<p><b>育児短時間勤務</b></p> <p>子の小学校就学まで1日の勤務時間を10時~16時30分(5時間45分)に短縮</p>	<p><b>介護休暇</b></p> <p>要介護状態にある家族1人につき年5日(要介護者が2人以上の場合は10日)</p>
<p><b>介護休業</b></p> <p>要介護状態にある家族1人につき通算6か月まで(3回まで分割可能)</p>	<p><b>介護時間</b></p> <p>要介護状態の家族の介護のため連続3年の間で1日2時間まで</p>	<p><b>介護短時間勤務</b></p> <p>要介護状態の家族の介護のため利用開始から3年の間で2回まで勤務時間を10時~16時30分(5時間45分)に短縮</p>